

平成26年度第3回社会教育委員会議会議録

開催日時 平成26年8月26日(火)
14時30分～
開催場所 逗子市役所5階 第5会議室

出席者 角田委員、秋山委員、長坂委員、桑原委員、柴垣委員、大内委員、松井委員、山田委員、堀江委員

(事務局) 翁川課長 高橋係長 荒木主事(記録者)

欠席 津留崎委員

傍聴者 なし

会議次第、提出資料 別添のとおり
事務局から資料の説明

報告事項

○教育委員会定例会について

資料1～4のとおり

○第45回関東甲信越静社会教育研究大会神奈川大会実行委員会第5回研究部会について
(資料5のとおり)

角田議長：参加された山田委員より報告いただく。

山田委員：研究部会では分科会について主に討議が行われた。逗子は第5分科会が担当で、会場は鎌倉生涯学習センターであるが、まだ下見の日程は決まっていない。運営責任は逗子市が代表となり、分科会全体の統括等を担うことになっている。(分担については、横須賀市へ提出した役割分担(案)のとおり)レコーダー等の機器は県で準備することになった。時間割等についても検討しているので、次回の委員会で報告できればと思う。

角田議長：分科会は5つあり、本大会もあるのか。

山田委員：本大会は1日目にあり16時前後に終わる予定である。全員参加で、会場設営の手伝いがある。2日目の分科会についても役割分担のとおり運営の準備がある。

事務局：全大会は、備品などもおよそ県で準備してくれるが、分科会については細かい運営用の備品については各担当市町村で準備する。

○平成26年度神奈川県社会教育委員連絡協議会研修会について

角田議長：出席した松井委員にお願いしたい。

8月21日に、神奈川県民センターで研修会に参加した。4市1町による関東大会での事例発表を事前に聞いた。各市町の教育委員の立場は分かった。結果についての報告があったが、その先どのような活動をするのかという展望がなかったので、少し物足りない印象を受けた。

角田議長：何人くらい出席したのか。

事務局：100名程度の参加者があった。

松井委員：関東大会のリハーサルということで参加者は多かった。

事務局：1つの自治体で25分の持ち分だが、どこも時間切れで結論まで説明できないところが多かった。各社会教育委員がどのような活動をしているのか具体的に説明をした方が良いという講評が県からあった。本番での発表時間は20分でさらに短くなる。

○第45回関東甲信越静社会教育研究大会神奈川大会に係る広告協賛金について

松井委員：事務局から報告をお願いしたい。

事務局：県では広告協賛金収入を90万の予算計上をしていたが、100万円を越えたとのこと。本市としても予定の3万円を越えた。三浦市では財団に依頼し、葉山町では企業に依頼したが、苦勞したとのこと。

議 題

○社会教育課事業の評価について（資料6のとおり）

事務局：それでは資料6をご覧ください。資料の確認をさせていただきます。全部で8種類ございました、「事業評価の流れ」、「事業評価の流れ」（参考）、「平成24年度評価」（参考）（こちらは3枚ございます）、評価資料①が2枚、評価資料②、平成25年度講座一覧、報告書類（141ページ）、「社会教育委員会議からの意見、助言（案）」が1枚です。不足などありますでしょうか。まず、評価方法につきましては、資料6の「評価の流れ」に沿って、昨年と同じような評価方法になっております。1枚めくって参考の表をご覧ください。昨年度実施した講座の評価を、回収したアンケートをもとに、①目標の反映度、②対象者の満足度、③広報の充実度、④目標の達成度の4つの観点で評価します。

次ページの「平成24年度評価」は昨年度の評価のまとめを参考に添付いたしました。

次に評価資料の説明をさせていただきます。添付いたしました平成25年度講座一覧にある各事業につきまして、参加者のアンケートの回答をまとめた報告書類をもとに事務局で評価しました。資料①1枚目をご覧ください。

各種講座事業につきましては、ゴミの減量化に関連した講座を4講座3回、SNSを地域活動に活用するためのフェイスブック講座を3回、消費者教育関連講座を1回、料理教室を2回、パソコン教室を2コース実施いたしました。

満足度が80点を越える講座が多く、目標の達成度も高いため概ね総合評価をAとしました。「生ゴミは資源だ!地域をつないで捨てないくらし」につきましては、参加者の満足度の平均が85.6点満足度は高いものの50人の募集に対し22名の参加にとどまり、「フェイスブック」講座は40名の募集に対し沼間公民館では18名、小坪公民館では12名とやや伸び悩んだため、広報の充実をBとしました。

2ページをご覧ください。家庭教育推進事業につきましてはイクメンスクールが連続講座として3回、子育てと仕事の両立と夫婦のパートナーシップをテーマとした「ママの『もっと働きたい!』をパパと叶えるフォーラム」と生活安全課との共催事業で産後ケアや女性の起業に関心のある女性が参加しました。イクメンスクールを除いた2講座は、満足度の平均は90点を越えましたが、参加者が募集に対して少ないため、広報の充実をBと評価しました。

人権教育等事業につきましては、映画「うまれる」の映画上映と講演会と、「復興と人権を考える映画と災害看護に関する講演」を行いました。参加者の満足度や目標の達成度も非常に高く、参加者も100名を越え広報も充実していたと考え、Aの評価をつけました。

続いて評価資料②をご覧ください。こちらの事業については、アンケートを行わない事業になります。概ね昨年度と同様の評価となりますが、小坪公民館まつり事業につきましては、公民館転用前の最後の開催となったため、少ない予算の中、工夫して行われました。

最後に「社会教育委員会議からの意見及び助言（案）」をご覧ください。「意見、助言（案）」につきましては、ほぼ昨年度の内容と同様となっております。

説明は以上となりますが、事業の評価（案）と社会教育委員会議からの意見、助言（案）につきましてご意見をお願いいたします。

角田議長：それでは今の説明に対して質疑応答をお願いしたい。

堀江委員：今回進めている総合プランの枝が分かれている部分であると思う。どの事業に関しても、一律的に出来る限りの広報はしていたと思うので、評価の方法として募集に対する参加者の人数で参加者の充実度を計ったのだと思う。参加者が少なかったのが評価をBにしたのであると思うが、それほど広報していなくても人が集まる講座もあり、一概に広報努力の結果とは言えないと思う。人気の違いもあり、数年続いている講座は内容も充実している。添付されているアンケートについては改めて見させていただく。

長坂委員：広報の充実度の評価がBのもがあるが、統計上本当に広報が足りなかったのか。なぜ広報の充実が足りなかったのかという分析をする必要がある。

事務局：基本的な広報は各講座で同じように行っている。今回の評価案では、目標人数に対しての実際の参加者の人数で評価を行ったためこのような結果になった。講座の内容評価は、人数の多い少ないに依らないものではあるが、募集人数に対する参加者が少ない場合は、やはり目標が達成されたと言い切れない部分があるため、Bの評価をした。

堀江委員：確かに参加者の集まりが悪い講座については、呼びかけを積極的にするなど、できる限りの広報はしており、手を打っていたように思う。なので、企画内容や広報のおしらせ内容をもっと参加したくなるような魅力的なものにする必要がある。

松井委員：過去に3回ほど講座に参加させていただいたが、アンケートが書きにくい。質問事項が多く、どうやって書いたら良いかが分からず答えられなかった。もっと答えやすいアンケート様式にしたらもっと評価してもらえないのではないか。

角田議長：アンケートは講座の評価をするにあたり必要なものだが、沢山書くのは嫌だという人もいる。選んで丸をつけるだけでなく、記述もあるので、参加者の中にはまめに書いてくれる人もいるので、記述欄は設ける必要があるが、皆が記述を書いてくれると期待しない方がいいのでは。書く人は書くが、書かない人は書かない。アンケートを書かないといけないのが面倒で講座への出席が遠のく人も中にはいるかもしれない。

長坂委員：アンケート様式は逗子市で共通のものか？

事務局：社会教育課では統一されているが、各課で別々に作成している。今後の社会教育プランとの関係もあり、どう評価していくのか難しいところではある。アンケートは質問の仕方によって行政のもっていきたい方向に操作できてしまう部分もある。

今後の社会教育講座をどのような企画していくかも含め、記入式と選択式のバランス等、アンケート様式の内容構成を考えていかなければならないので、委員の皆さまにも是非ご意見をいた

だきたい。点検評価という形で教育委員会でも図り、最終的には議会に報告しているので、非常にアンケートに要求されている部分が多い。時間的な制約もあり実際なかなか難しいが、書面以外にもインタビュー等、何か他の手段で反映できるよい案があれば取り入れていきたい。委員の皆さまから何か良いお考えがあればお話いただければ助かる。

堀江委員：講座へ参加する際には、アンケートに出来るだけ回答している。講座が始まると合間にも記入しているが、しっかり意見を書こうとすると、アンケートを書くのに20分くらいかかる。一般的には5分～10分程度に書ける様式が望ましいと思われる。

桑原委員：質問内容が重複している項目があるかと思う。

堀江委員：アンケート用紙を両面から、片面にしたらどうか。

事務局：アンケートをもとに評価をしたいのでボリュームが出てしまっている。参加者が少ないから評価が悪いのかというのは別だが、50人の募集に対して20人の参加者だとすると、同じ広報の周知はしていても、関心が低い講座については参加人数が少なく、評価を下げなくてはならないのかと思う。だからと言って、人気の高い講座だけを行えば良いとも言えない。社会教育なので関心の低いテーマもある。

堀江委員：人気のある講座だけやれば良い訳ではない。

桑原委員：講演会形式は行きやすい。

長坂委員：2、3人の委員でアンケートの改定案をお作りいただいたらいかがか。

秋山委員：地域活動フェイスブック使いこなし術の講座に友人が出席した。初心者でも良いと言われて参加したが知識のレベルにばらつきがあり、良く分からなかったので、個人的に直接電話で講師に問い合わせさせて教えていただいた。募集する際に、参加者にばらつきがあると講師も教えにくく、受講者も満足度が低くなりがちである。ある程度参加者を絞る必要がある。

角田委員：パソコン教室についてもどのレベルなのかをはっきりさせる必要がある。

事務局：初心者向けのフェイスブック講座についても、講座の冒頭に参加者に手を挙げてもらい、レベルチェックをしたが、ばらつきがあった。受講者のレベルを正確に分けるのは、背伸びする人もいるので難しく、募集欄を広報の紙面で大きく取るのは中々難しいが、うまく対象者もマッチさせることも大切な仕事課と思う。

大内委員：アンケートを読むと、誰がどのような目的で質問しているのかというと、主催者が参加者の課題を見つけるためであると思う。しかし申し訳ないが両面は書きにくい。内容は結構重なっている。毎回書かせると嫌になってしまうのではと思う。もう少し内容の簡素化をし、より次回に生かせるようにしてはどうか。また、年齢を聞く質問項目は必要か。

角田議長：県で統計を取るためではないか。性別や年齢をわざわざ書かせるのかと文句を言う人もいる。

事務局：このテーマにはどのような層が多いのかという分析ができる狙いで設けているが、長坂委員がおっしゃるように、アンケートの改定案を委員の皆様からのご意見をいただきながら、来年度に向けて工夫できるようにしたい。来年度は、総合評価にもからむので、宜しくお願ひしたい。

松井委員：社会教育委員会議で提案できる講座はあるのか。教育委員会から、社会教育委員会として発信できる講座はあるのか。

事務局：今後秋山委員などからも、講座のお手伝いをというお話をいただいていた。長坂委員を講師に、講座を企画していて、その際に企画に携わっていただければと思う。1月に実施予定の人権教育講演会も、フェアトレードの内容でこれから発展性のあるテーマである。

長坂委員：この講座は了承しているが、質問に対してはまた違う。社会教育課の講座は、1本でも2

でも、優先度を決めてテーマ設定を会議で決めていっても良いのではないか。

事務局：現代的課題として、社会教育課でテーマを決めている。社会教育総合プランが設定されるにあたり、意義ある講座を開くには、地域に還元できる人材（地域課題に取り組めるような青少年指導員など）を育成できるような内容にしていきたい。委員の皆さまには地域の声を聞いていただける母体があるので、ご意見をお伺いできればと思う。

（大内議員：所用により退出）

角田議長：広報の充実度でBの評価をどのように位置付けるのか確かに難しい。70人の募集人数に14人の参加者であれば、Aという評価をするのも問題がある。それが、広報が十分でなかったためなのかも分からないし、企画内容に問題があったのか、テーマ設定として需要が少ないものであったのかは分からない。そこでなぜそのような講座をやったのかを追及しても、需要が少ないと思ってやってみたら結果が出たり、逆に需要が高いと思って講座を行っても人が集まらなかったりと、実施してみなければ分からないという側面もある。

○（仮称）社会教育総合プラン（案）について（資料7のとおり）

事務局：資料7に加えて、プランに「過去からの」を追加されることになった。

文化財に関しては、全県的に、言い回しがある。逗子には国指定文化財「名越切通」、「長柄桜山古墳」という目玉があるので、総合計画審議会から要望があり、会議において修正となり、社会教育総合プランの理念の部分にも加えていくことになる。

（資料：24）

事務局：5角形の図の中の、第2節の部分を参照いただきたい。（評価の関係で、1ページ2番参照）AからCについての評価重点的なものはA、重要度によってB、それほど重要性がないものについてはCと評価する。Bについては基幹計画の評価にも及ぶ。評価としてはABCの3つがあると考えていただければと思う。リーディング事業として、社会教育課から出しているのが、各種講座事業。市民大学講座等、内容は未定であるが、2年計画。

人材育成のための講座の実施。2年、3年重ねて人材育成出来る講座をとということで。長坂先生を中心に、地域の人材育成をして、評価というのは厳しいが。総合計画の中でトップのAという事業になっており、総合計画に影響してくるので、よろしく願いたい。

（翁川課長）

本日配布した資料は、市長のイメージをまとめたもの。実施計画についての1～4、3の「総合計画・期間計画・個別計画の全体像」5つの柱 第2節にある社会教育。

長坂委員：第5節については、個別計画がないということであるが、執筆担当課がないということか。

事務局：担当課が決まっていない。社会教育課は第5節には入らないということは決まっている。

（係長）

長坂委員の総合プランの（案）について検討していきたい。

[資料：社会教育とは（案）「社会教育」の法律上の定義 ※長坂委員作成 参照]

事務局：表現の訂正事項。上から5行目の「および」を「及び」と漢字に修正。下から2行名の「学習継続を可能に」の表現を「学習を継続可能に」と表現を入れ替える。

逗子の教育の部分を確認したい。

松井委員：基本的なところで、プランのイントロになる。読み手は導入なのでさらっと読む部分。以前はさらっと読めたが。導入でこれだけ盛り込む必要があるか。

松井委員：短くなった意味もあると思うが。前の委員で検討していると思う。内容ではなく、導入のボリュームが。

秋山委員：以前の委員も読み手が読みやすい内容を目指してきた。読み手が楽に読めればいいかなと思う。一般市民が読むので、冒頭から何条何項と書くと拒否反応が出る人もいる気がする。議論が行ったり来たりしているが。

角田議長：他の方はいかがか。

秋山委員：前からいる委員にも意見を伺ってみたい。

山田委員：前からいた委員として発言させていただく。社会教育を説明するのに、平易な文章が無い。そうすると、生涯学習に関して言及せざるを得ない。今までの行きがかり上で、いくとこのようになっていく。説明をするにはこうならざるを得ない。社会教育とは一体何かを知るには、プランの前提を作るには、イントロとしてこうならざるを得ないと理解をしている。

堀江委員：会議の折々に、問題点が出て続いていると思うが、そろそろ終着させる時期に来ている。しっかりととらえるための資料として書こうとするなら、長坂先生の手稿は、自分たちが獲得するより、行政のサービスではなく、国民のために整備しなくてはということがはっきり明確になっている。人に説明するにはオフィシャルではないかと思う。

「教育基本法の第12条2項」の引用がないが。教育基本法は

堀江委員：社会教育委員会会議を経た後は、添削は入るのか。他でチェックされて、再度委員会で検討するのか。

事務局：理念の部分は総合計画の

堀江委員：そのようなことを前提として、理論装備をしておいた方がいい。

事務局：修正は入らない。このままの内容である。プロローグとしてどうなのかという意見はあり、分かる。文章の流れがあるので、市民自治の部分は、まだ出来ていないので総合計画から指摘されることはあり得る。2節の5項。

桑原委員：社会教育の理念は「人づくり」と言っているので、基幹計画「共育」にも。最後の。

長坂委員：私の意見としては基幹計画に。

桑原委員「まちづくりを人づくりにしては。

事務局：並列しても良い。

堀江委員：目次と照らし合わせると。

桑原委員：ページを分けて、法律の定義はよくわからなくても、「社会教育？とは」を読めばわかるような構成にしたらどうか。

議長、堀江委員、事務局：見やすいかと思う。

長坂委員：その方が見やすい。「人づくり」を加えたら良い。

事務局：どうしても、社会教育プランの基幹計画は「共育」なので。

山田委員：資料7の（仮）プラン（案）4頁の「関係について」で言及しているのでよいのでは。

長坂委員：市民自治の「共に学び、共に育つ共育」。先ほど、桑原委員がのべた意見に賛同した。

「まちづくり」を「人づくり」に変える。

堀江委員：文章的にも。

長坂委員：読みにくいという意見も含めて何となく解決した。ページの割り振りなどは。

事務局：ページ指定はない。松井委員や秋山委員のご意見もあるが、定義も2頁に渡ってしまうのでは
という意見で、先程のアンケートではないが、長いと読みにくいという意見もある。

長坂委員：もしスペース等で工夫して収まれば。

事務局：では目次、法律の定義、訂正箇所を訂正。「まちづくり」を「人づくり」に変更

○その他

フェアトレードの講座は1月18日（日）に行う予定である。

次回は10月29日（水）14時30分から委員会を行う。

【資料】

- 1 教育委員会4月定例会会議録
- 2 教育委員会5月定例会会議録
- 3 教育委員会6月定例会会議録
- 4 教育委員会第1回臨時会会議録
- 5 第45回関東甲信越静社会教育研究大会神奈川大会実行委員会第5回研究部会資料
- 6 社会教育課事業評価資料
- 7 (仮称) 社会教育総合プラン(案) について

【その他資料】

- ・ 講座ちらし
- ・ アンケート用紙